

# Local Area News

## 年に一度の“桐生織物求評会”を開催

桐生織物(協)

2月6日・7日、桐生市・桐生織物記念館において、桐生織物求評会を開催。組合加盟の14事業者が出品した帯、着物、服飾工芸品の3部門の新作、計252点を展示した。

来場者による投票が行われ、柄や色、風合い、新鮮さに着目して選考を行い、224名が参加。参加者には記念品として選べるコースターを贈り、好きな柄を探す楽しそうな声で賑わった。

また、展示の中には、同組合の「和装織物新製品開発事業」で学生から募ったデザインを基にした作品もあり、帯や着物等になった自分のデザインに感動する学生もいた。

結果は2月11日～15日に発表会を開催し、経済産業大臣賞をはじめとする13賞32点の入賞作品をお披露目した。



色彩が美しいものやユニークなデザインなど、各組合員自慢の作品が並ぶ会場



## 全群馬近代こけしコンクールの作品展開催

群馬県こけし(協)

2月6日～9日、前橋市・県庁県民ホールにおいて、第66回全群馬近代こけしコンクールの作品展を群馬県などと共同で開催した。

近代こけしは、伝統の枠組みにとらわれないデザインが特徴の群馬県独特の文化で、その魅力を広く紹介し、近代こけし産業の振興発展に寄与することを目的として昭和34年から本コンクールを行っている。

6日には審査会が開かれ、一点ものの「創作こけしの部」、大量生産を想定した「新型こけしの部」、ロクロ技術を主体とした玩具「木地玩具の部」、アマチュア作品の「一般の部」の4部門に応募された計252点の中から36作品が入賞し、その後一般公開した。



群馬県中小企業団体中央会長賞の受賞作品「小物入れ」

## 防災・減災及び防犯対策におけるコンクリートブロック活用講習会を開催

群馬県コンクリートブロック事業(協)

2月16日、前橋市・前橋商工会議所において、2人の専門家を招いた講習会を開催した。

前半は「ブロック塀で防災から減災へ、ブロックが水害から命を守る」と題し、福岡大学工学部建築学科・元教授の古賀一八氏が登壇。

古賀氏は、建物を建てる時、耐震性はポピュラーであるが耐水性は見落としやすく、日本は水害も多い地域であるため、ハザードマップで浸水深を調べ、それに応じた水害対策が必要であると述べた。また、これまでの被害調査結果から、ブロック塀は適切に施工すれば最強の防災壁となり、費用対効果の高い盾となることが明らかであると話し、過去の防災事例を動画や写真とともに紹介。まとめでは、施工方法について業界の統一ルールを制定し、業界一丸となって安全な未来を築く仕組みを自分たちで作ろうと締めた。

後半は「防犯を考慮したクローズ外構について」と題し、一般社団法人日本エクステリア設計協会(JEXA)・会長の古橋宜昌氏が登壇。

住居には、家族を守り、安心して暮らせるエクステリアが必要であると強調し、防犯に考慮したプランを実例とともに説明した。



150名もの業界関係者が出席した